

用鴎は羽ばたく

新潟市立木戸中学校
〒950-0891
新潟県新潟市東区上木戸 5-1-1
Tel 274-2615 FAX 274-2616
学校だより 令和 5 年 3 月 9 日(木)

教育目標 「創造力を養い 仲間と共に 広く世界をみつめる」

第 6 号 卒業記念号

令和 4 年度 卒業式 3 月 9 日(木)挙行

卒業生は、入学前から新型コロナウイルス禍に見舞われ、制限があり不自由な中学校生活3年間を送りました。逆境にも負けず皆でやれることに全力を尽くし、成果を上げて卒業を迎えました。卒業生が次のステージでも輝いてくれることを願っています。



令和四年度 卒業式 式 辞

三月に入り、気候も
ようやく穏やかに
日差しが暖かさを感じ
られるようになりまし
た。
地域の木々も芽吹き
の時を待ち望んでいま
す。

感染予防対策とし
て、縮小した形での開
催となりましたが

本日、新潟市立木戸
中学校第五十四回卒業
証書授与式を挙行でき
ることは誠に有り難
く、これまでご協力頂
いた皆様に心より感謝
申し上げます。

保護者の皆様、本日
はお子様の中学校卒業
証におめでとうござ
います。
お子様の成長ぶりに感
慨もひとしおのことと
思います。
心よりお祝い申し上
げます。

卒業生の皆さん、卒業
おめでとうございます。
木戸中学校に入学して
から三年間、活動が制限
されることも多い中で、
心も身体も大きく成長し
ました。特に三年生に進
級してからは、木戸中学
校のリーダーとして活躍
してくれました。

年間を通して生徒玄関
に大きく掲げられた生徒
会スローガン

「躍進 パワー オブ
スマイル」のもと、ねらい
を達成するための活動が
行われました。

翠嵐祭に向けた取組で
は、リーダーに笑顔が見
られ楽しい雰囲気の中で
練習が行われました。

その結果、個人ではなし
得ない、集団活動を通し
た達成感と充実感を味わ
ったことと思います。

おとり祭では、学級
の団結を深め、迫力に満
ちた合唱で感動を与えて
くれました。聞いていた
一・二年生はそんな卒業生
の姿を見て、来年、再来年と

素晴らしい合唱を創り上
げてくれることでしょう。

さらに、部活動や専
門委員会においても
一・二年生をリードす
るたくましい姿で活動
を充実させてくれまし
た。

木戸中学校区では
「失敗をおそれず
粘り強く挑戦し続け
自信をもつ子ども」を
目指す子どもの姿に掲
げています。

今年度の三年生は、
総合的な学習の時間に
木戸中・絆・プロジェクト
として、

幅広くテーマに沿った
地域貢献活動を展開し
ました。

地域の方々からは、
皆さんの取組をしっか
りと見守り、応援して
いただきました。

今日、木戸中学校を
卒業していく皆さん
が、地域の一員として
自信をもって活躍して
くれることを、教職員
一同心より期待してい
ます。

この後、卒業生によ
る「栄光の架橋」の合唱
があります。

その歌詞から、卒業
生に送りたい一節は

悲しみや苦しみの先に
それぞれの光がある
さあ行こう 振り返
らず走り出せばいい
希望に満ちた空へ
です。

そして、卒業生一人
一人が校歌にあるように
理想の虹かけて
みごとに空を飾って
くれることを、

本日も臨席の皆様方と
共に願い、式辞といた
します。

令和五年三月九日

新潟市立木戸中学校長
中野民生





送る言葉

肌を刺すような冷たい外気が和らぎ、吹く風にも春の訪れを感じるようになってきました。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。この木戸中学校を明るく引継いでくださり、どんな時でも私たちに笑顔にしてください。そんな先輩方には感謝でいっぱいです。そんな先輩方には卒業に寂しさを感じずにはいられません。それほど、私たちにあって、大きな存在であり、憧れの存在でした。

翠風祭では、昨年度に引き続き、今年もマスクを着用したまま、ダンスでの応援となりました。難しい振り付けが多い中、全員ができるようになるまで、丁寧に教えていただきました。翠風祭当日はどの連合も迫力ある素晴らしい応援となりました。また、先輩方の一生懸命な姿はともかくよく、私たちに自信や勇気を与えてくれました。おかげで、全校が精いっぱい力を出し切ることができました。

おとり祭では、先輩方の美しいハーモニートと迫力ある素晴らしい歌声に心を奪われたのを今でも鮮明に覚えていいます。歌声だけでなく滑らかな指揮や美しいハーモニートを奏でたピアノ伴奏にも心が動かされました。

日々の活動の中でも先輩方は常に輝いていました。生徒会活動では、仕事内容や各委員会の特別活動などわからないことを一つ一つ丁寧に教えてくださいました。

制限がある中でもiPadの活用やzoomでの生徒朝会、レクなど工夫していた先輩方の努力があり、全校が一つになれました。部活動でも、練習の仕方など優しく教えてくださいました。先輩方は、私たちが失敗した時や落ち込んだ時も私たちに手を差し伸べてくださいました。そんな先輩方は、常に私たち後輩の憧れの存在でした。

今日、みなさんはこの木戸中学校を卒業し、一人一人が別々の道に進んでいかれます。時に迷ったり、立ち止まったりしたりすることがあるかもしれません。しかし、そんな時には、この木戸中学校で過ごした三年間を思い出してみてください。みんなで頑張ったこと、笑い合ったこと、そして仲間と過ごしたかけがえのない日々。私たちにたくさん自信と希望を与えてくださった先輩方なら、きっと諦めずにどんな困難でも乗り越えていけると信じています。

どんな時でも頼りになり、そして私たちを支えてくださった先輩方が卒業されると思うと心寂しくなります。しかし、これからは私たちが在校生が、先輩方が築き上げてきたこの木戸中学校の伝統を守り、引き継ぎ、さらに良いものにしていくためにさらに努力することを誓います。

最後に、ご卒業される先輩方のますますのご活躍とご健康を在校生一同お祈り申し上げます。送る言葉といえます。

令和五年三月九日

在校生代表 佐藤 樹里

3 / 8 在校生に披露

卒業合唱「栄光への架橋」♪…希望に満ちた空へ…♪





卒業生の言葉

冬の寒さが過ぎ去り、吹く風も春を感じるようになりました。本日は、私たちのために素晴らしい式を挙げていただきありがとうございます。ご多用の中ご臨席いただきました皆様卒業生一同心から御礼申し上げます。

思い返せば、三年前の四月、満開の桜のもと、私たちは木戸中学校に入学しました。新型コロナウイルスの国内感染の増加による休校で小学校にきちんと別れを告げる事ができないまま、中学校の入学式に臨みました。これから始まる中学校生活に思いを巡らしつつも「どんな先生方や先輩方がいるのだろう」「勉強についていけるだろうか」と不安な気持ちでいっぱいでした。私は新入生代表としてこの壇上で緊張しながら挨拶をしたことを今でも鮮明に覚えています。

入学してから約二週間後に休校となり、その後分散登校の期間があり、新しいクラスメートとも十分に顔を合わせることもできませんでした。入学して二か月後によりやく部活動が始まり、きつい練習を共に取り組むかけがえのない仲間と出会うことができました。最初の頃は練習のつらさに驚き、練習についていけないような毎日でした。

二年生になり、日々の練習の成果を発揮する新人戦と東京への修学旅行を楽しむにしていた頃、新人戦の中止と県内での修学旅行へ変更することを知りました。悔しくてやるせない気持ちでした。そんな中、やれた気持ちの中、十二月に私たちは修学旅行に行きました。東京に行くことはできませんでしたが、新潟のことをさらに深く知ることができました。

そして、何よりも仲間との大切な思い出を作ることができました。先生方や訪問先の方々の熱心な準備のおかげで、一生心に残る修学旅行になりました。

そして、三年生。生徒会では部活動・委員会単位による朝の挨拶運動、タブレット使用についてのアンケート調査など、新たな取り組みを行いました。各専門委員会も学校生活をよりよくしようと様々な活動を行いました。全校のみなさんの協力のおかげで昨年以上の取り組みをすることができたと思います。ありがとうございました。

六月に行われた市内大会では、新人戦が中止になった悔しさをぶつけ、一人一人が精一杯試合に挑むことができました。大会に向けて仲間と共に必死に練習に取り組みました。一人だけで練習することは無理であり、共に鍛え、共に戦う仲間、そして活動を指導していただいた先生方がいてくださったからこそ、苦しいことを乗り越え、心も体も成長できたのだと思います。

さらに夏、私たちは最後の翠嵐祭に臨みました。各連合が最高の結果を得るために本番まで応援リーダーを中心に何か月も準備をしました。当初雨予報だった当日、雨雲を吹き飛ばすかのような熱気で最後まで予定通り実施することができました。どの連合も最高のパフォーマンスで最高に盛り上がった翠嵐祭になりました。そして全員が笑顔でピースサインをして写真に納まることができました。

十月のおおとり祭。クラスの仲間と合唱することは人生で最後になるかもしれないと思います。クラス一丸となって練習に取り組みしました。三年生の合唱はとても難しく、最初は音程が合わなかったり、あまり声でなかったりして、きれいなハーモニーを奏でることができませんでした。

しかし、練習を積み重ね、改善点を話し合ったり、昼休みも積極的に練習したりして、翠嵐祭で深めた絆で、本番ではどのクラスも一番よい合唱をすることができたと思います。クラスが一つになって合唱したことは私たちのかけがえのない思い出となりました。

そして今日、私たちはこの木戸中学校を卒業します。三年間の中学校生活は決して楽しいことや嬉しいことばかりではありませんでした。でも、どんなときも一緒にいてくれた仲間、いつも優しく教え、助けてくださった先生方、そして私たちを一番近くで支えてくれた家族がいたからこそ、苦しいときも悲しいときも乗り越えることができました。

在校生のみなさんと部活動で一緒に汗を流したり、翠嵐祭で一致団結して応援に取り組んだりしたことは深く心に残っています。これからは、木戸中学校の伝統を受け継ぎ、さらにより良い木戸中学校を創っていただくさい。中学校生活はあっという間です。一日一日を大切に、ぜひ皆さんの思い出を作ってください。

私たちはこれからそれぞれが自分の夢を叶えるために自分の選んだ道を歩みます。道に迷うときもあるかと思いますが、木戸中学校で得た様々な経験、学びを生かし、力強く突き進んでいきます。

最後になりましたが、卒業生を代表して、三年間の中学校生活を支えてくださった全ての方に改めて感謝申し上げますとともに、木戸中学校のますますの発展を心からお祈りし、卒業生代表の言葉とさせていただきます。

令和五年三月九日

第五十四回卒業生代表

宮原 晴大

